

阿部睦会の歴史と共に

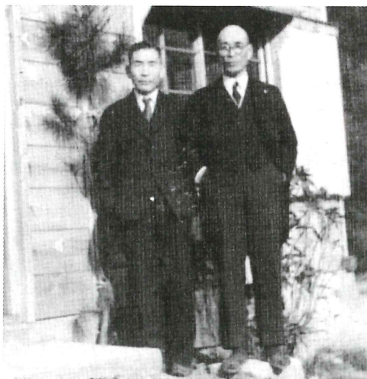
共楽荘養護老人ホーム

施設長 阿部 輝雄



阿部睦会も昭和23年10月1日の創設でありますので、58年目を迎えて、幾多の苦難をのり越え今日に至っておりますが、当時を忍ぶと隔世の感があります。

初代会長でありました阿部倉吉先生は古来より社会福祉に情熱を傾けられ、大正末期には婦女子のための就労場である日の出授産所（縫製関係）、そしてその子供達のための託児所（現保育所）に奉職され、事務長そして会長として精励され、戦時中はその授産施設が国の示唆で軍服の縫製工場に転換させられ終戦を迎えたと聞いております。



創設者 阿部倉吉先生(右)と
木暮事務長(昭和23年頃)

その翌年には戦争の犠牲者とともにうべき生活困難者のために生活保護法に基づく養護施設、共楽荘を開設されました。当時の共楽荘の建物は関東財務局より借り受けた旧海軍工廠の工員宿舎で終戦直前に立てら



共楽荘創設当時の建物(昭和24年頃)

昭和23年には新しい組織として財団法人阿部睦会を設立され自ら会長となり旧法人より授産施設と保育施設を継承しその運営にあたり、

れたバラック建てで戦後3年も放置されていた関係で背丈以上の夏草が生え終戦直後の時代であった関係で建具、畳などは持ち去られ、そのままでは使用できないほど荒廃しておりました。

初代会長は私財を投じ、多くの方々の協力で内部改造に取り組み、何とか人間の住めるところになったことが、懐かしく思い出されます。

その頃は戦後まもないこともあり国民の一人ひとりが自分の生活に精一杯で、他人のことなどかまっていられない時代で、横須賀をはじめとして、戦災に会った横浜、川崎には多くの生活困難者が衣食住にこと欠き、



日の出授産所

防空壕や地下道での生活をよぎなくされ、それ等の人々を救済することを目的に関係官庁のご理解の中で開設されたのであります。

当初は社会福祉制度も未熟の時代で施設は「家業」的な考えの中で経営されており、施設利用者も経済



創設当時の日の出保育園

的困窮者が対象で、入所されるお年よりも着の身着のままの人が多く、時には古毛布に包まれたような状態で送り込まれ、ほとんどの人が、病弱、栄養失調で、可愛想だから、気の毒だからの考えの中での世話で、その対応にも「苦労があったことが否めない事実で、三方、小山に囲まれた敷地の中で野菜を作り、豚やニワトリ、



共楽荘創設当時の居室(団欒)

山羊を飼い、山羊のお乳は栄養食となり、少しでも食料の足しにしていたことが懐かしく思い出されます。今では施設内には自動車がところ狭狭と置かれていますが、その頃はリヤカー1台が唯一の機動力で、それを使って食料の買出しにも苦勞がありました。思い出多い歴史の「コマ」でもあります。

アメリカより提供された「ララ物資」の衣類など、「CAC」よりの粉ミルク、施設内で採れた野菜、山羊の乳、ニワトリの玉子、豚は養豚所に出して肉にかえ、衣食をしのぎ職員もお年寄りも一緒になって生きることにより懸命の時代で、特に病弱者のために建てられた病棟(24床)は初代会長

は仕事の二重生活で施設に泊まり込んでの業務は大変なものがあり、そのことが許された時代でもありませんでした。

この様に共楽荘も創生期をのり越え建設期に向かうべき矢先に私達が慈父のようにお慕いしていた初代会長が突如として急逝され深い悲しみに落ち入りましたが、幸いにして当時の理事の温かいご理解とご協力で現会長を迎えることができました。



共楽荘創設当時の食事風景

の思いやりでお年寄りにとっては大きな福音でもありました。

そして社会福祉事業法が制定された中でいち早く社会福祉法人に組織変更され、私などは昼は大学に夜

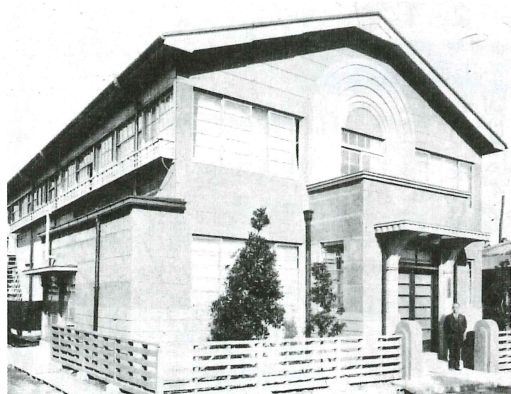


共楽荘お年寄りの生活風景<針仕事>(昭和28年盛夏)

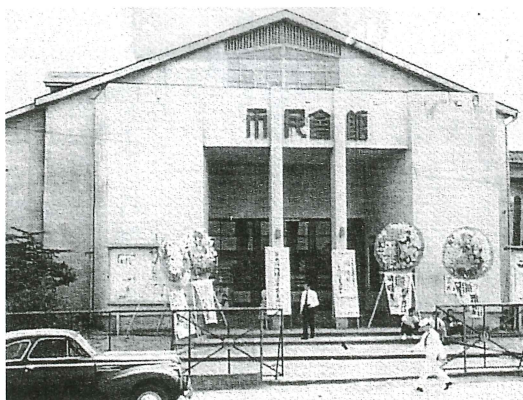
た。現会長が先ず手がけられたものは病弱者のための診療所開設と夫婦者のための園舎の増築で、お年寄りにとっては病気に関する不安の解消と心の安らぎにもなりました。

一方、既存の建物は終戦直前のバラック建の關係で大風が吹くと2階が揺れる状態であったことと、入所者に少しでも快適な生活をとの配慮の中で、昭和30年より2カ年計画の中で園舎が立派に改築されました。その当時は今のような補助金制度も確立されていない時代でもあり、毎年、今ではご他界されている美空ひばりさん、三橋美智也さんなど、芸能

(次号につづく)



旧 阿部睦会本部(授産所全景)



寄附興業 市民会館

人の協力の中で、今でいうチャリティショーが行われ改築のための自己資金の調達に追われ大変な苦勞もありましたが、それはそれなりに良き思い出として残っております。

阿部睦会の歴史と共に (後編)

戦後、全国の福祉施設の大方が軍関係の古い建物を利用しての施設経営であり、共楽荘が改築されたことは、画期的なことで、NHKのテレビに放映されたり、新聞等のマスコミの報道、そして厚生省の紹介で全国より多くの人達が施設見学を訪れ、それは活気に満ち社会的にも評価されたものと思われま

す。日本の高齢者人口も年々増加の一途をたどり、高齢化社会を迎えつつある中で、遂には世界初の単独立



初代 阿部倉吉会長 胸像



阿部絢子会長と内山知事



共楽荘開設当時の執筆者



改修前の共楽荘養護棟

法ともいわれる老人福祉法が制定され、生活保護法の救済的考えより脱皮して社会の責任においてケアする考え方に移行し、施設の呼び名も救済的な養老施設にかわって、養護老人ホームとなり、そして心身共にハンデがあつて在宅での生活が困難な人のために特別養護老人ホームと最低生活維持のための経費老人ホーム、健康者の生きがい対策のひとつであります老人福祉センターが老人福祉施設として制度化されるに至りま

した。

多くの虚弱老人を抱えての共楽荘も厚生省、県、市のご示唆とご指導を頂き養護老人ホームの一部を全国に先駆け県下第一号の特別養護老人ホーム、定員50名として発足させました。一方永年経営して参りました授産施設も時代の流れの中で閉鎖することになり、その売却資金で三浦市初声町に土地を購入し、米軍横須賀基地のブルドーザ部隊の援助で造成され、今でいうグループホームの発想の中で共楽荘初声分園2棟(1棟16名)が建設されました。これは阿部絢子現会長の思慮の深さと英断の成果でありました。その後増築が行われ昭和45年には定員80名の美山ホームとして独立いたしました。その頃になりますと我が国の高齢



米軍基地ブルドーザ部隊の奉仕



日の出保育園の元気な園児達

者人口も7%を超え高齢化社会に突入し、共楽荘においても時代のニーズに即応するため増改築を行い、定員120名の特別養護老人ホームと養護老人ホーム85名となり共楽荘の骨格がほぼまとまったともいえます。

昭和50年代に入り、永年に亘り横須賀の日の出町にて経営して参りました保育施設も新開地、桜が丘に移転新築し、定員120名の子供の城、日の出保育園として新しい歩みを始めました。

一方、高齢者人口の増加と共に福祉のもてる物的、人的機能を地域社会に提供すべく「施設の社会化」がはじまり入浴サービスをはじめとして給食サービス、一時入所、短期入所、高齢者緊急相談事業などを実施して参りました。昭和59年に永年の懸

案でもありました。集会所が増改築されデイサービス事業を中心とする、共楽荘コミュニティ友愛センターを開設し在宅福祉に向けての、対応が図られるようになりました。

美山ホームも定員50名の特別養護老人ホーム創設を契機に処遇の向上を目的として養護老人ホームも定員50名の個室化が図られました。

当時は画期的に威厳を誇っていた共楽荘も特養B棟が解体され、関係官庁の温かいご指導とご援助により改築され、43周年感謝の集いと竣工式が開催されました。その中でも初代会長の遺徳を偲び末永く、後世に業績を伝えるための胸像が建立されましたことは嬉しい限りであります。そして時代のニーズに即応するため、共楽荘在宅支援センターの開設、



共楽荘養護棟

共楽荘特養棟



共楽荘デイセンター

在宅一人暮らし老人のためのふれあいお弁当事業の開始、その中で共楽荘C棟と管理棟が関係官庁のご理解の中で全面的に改築され、特養定員135名となり、その中に重度特養棟30名が併設されたのは時代のニーズに応えたものと評価され竣工式が開催されたことは記憶に新しいところであります。

昭和30年初期に改築されました養護棟も40余年の歴史の中で威容を誇つて参りましたが風雪と共に老朽化に勝つことができず、いよいよ解体することになり21世紀に向けて地上4階建てとして改築され、定員72名ショートステイ5名の全室個室が図られ創立50周年の記念式典と養護棟竣工披露祝賀会が現総理小泉純一郎氏をはじめ、多くの来賓の参

列を頂き盛大に開催されたことは意義深い限りでありました。

そして平成16年3月には横浜市の施設整備計画の事業委託を請け、横浜市金沢区能見台に定員80名の特別養護老人ホームである横浜能見台ホームを竣工させ、続いて平成17年3月には美山特養ホームを短期入所含め、40床を増床し、国の新たな施策である小規模生活単位型特養(ユニット)を開設し、定員80名短期入所14名といたしました。

この様に阿部睦会にあつては、永年に亘り施設整備を図りながら、お年寄りが生きがいを感じ、明るく、楽しく、美しく老いようを合言葉に、心豊かな日々が過ごせるよう、きめ細かな処遇の展開をして参りました。子供を取り巻く環境にも意を用

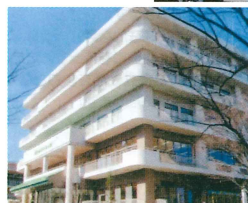


阿部睦会創立50周年 共楽荘養護竣工記念式典・祝賀会

い、無限の可能性を信じてつ保育にあたつているところであります。また一人ひとりがお年寄りや子供達の喜びを我が喜びに転嫁し、仕事上の生きがいに喜びを見出し、日々感性を磨いているところでもあります。私達は介護保険導入の今回、制度に対応できる条件の検証と資質の向上を図り、無駄を除き創意工夫の中で各施設のもてるノウハウを十二分に発揮し在宅福祉にも意を用い、全ての人々が幸せである社会づくりを目指して、日々研鑽し、地域から親しまれ信頼され、地域に密着し、根ざした施設として役職員が会長を中心に一貫となり充実強化を図つて参る所存でございますので、尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。



新装した美山特養ホーム



横浜能見台ホーム